



日本の生態系が、危ない。

ブラックバス、アライグマ、カミツキガメ...皆さんも一度は耳にしたことがあるでしょう。
もともと日本にはいなかった生き物が増え、日本の生態系を脅かしている事実。
外来生物の現状はどうなっているのか、そして今後どう対策していくのか。
この機会に外来生物問題を一緒に考えましょう!

外来生物シンポジウム ー生物多様性保全の視点からー

日時／ 2007年2月23日(金)
13:00～16:00(開場 12:00)
会場／名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)
7階メインホール

入場無料
申込み不要



名古屋市中小企業振興会館
名古屋市千種区吹上2-6-3

〈アクセス〉
■ 地下鉄 桜通線「吹上」下車
5番出口から徒歩5分
■ TEL:052-735-2111

プログラム

- 13:00 開会
挨拶 中部地方環境事務所長 青山 銀三
- 13:10 基調講演
「東山動物園における外来生物に関する取り組みと将来展望」
伊藤 嘉男(名古屋市東山動物園長)
- 13:50 パネルディスカッション
テーマ「外来生物対策の展望 ー現状と課題からー」
出演者
コーディネーター 飯尾 歩(中日新聞社論説委員)
パネリスト 伊藤 嘉男(名古屋市東山動物園長)
細谷 和海(近畿大学教授)
矢部 隆(愛知学泉大学助教授)
浅野 玄(岐阜大学講師)
鳥居 敏男(環境省自然環境局野生生物課
外来生物対策室長)

(敬称略・プロフィールは裏面)

〔問い合わせ先〕
環境省 中部地方環境事務所 野生生物課
TEL:052-955-2139

主催:環境省中部地方環境事務所



後援:愛知県、名古屋市(東山動物園)、東海農政局、中日新聞社

シンポジウム開催にあたって

最近ニュースなどでよく報道されるアライグマやカミツキガメといった外来生物は、もともと日本には生息していなかった生き物です。人間活動によって日本に移入され、野外に放たれたり逃げたりした外来生物は、その強い生命力により急速に増加しています。そして昔から日本に生息していた生き物は外来生物に食べられたり、棲む場所を奪われたりするようになり、いま日本固有の生態系は大きく脅かされています。

このような外来生物問題の現状を皆様に広く理解していただくことを目的として、今回のシンポジウムを開催します。

外来生物に関する東山動物園の取り組みと将来展望についての基調講演、さらに外来生物に携わる様々な分野の方が一堂に会したパネルディスカッションにより、外来生物が日本の生態系に及ぼしてきた影響や今後の対策の方向性についてわかりやすくお伝えしたいと思います。

このシンポジウムにより、外来生物問題の重大性をより多くの方に理解していただけることを願っています。

出演者プロフィール

基調講演者・パネリスト

伊藤 嘉男 (いとう よしお)

名古屋市東山動物園長。1947年愛知県生まれ。医学博士。69年より名古屋市役所に勤務。動物園、動物愛護センター、食肉衛生検査所などを経て、2004年より現職。現在、東山動植物園開園70周年記念事業の準備と動植物園再生プラン基本計画の策定に取り組んでいる。日本めだかトラスト協会副会長。

コーディネーター

飯尾 歩 (いいお あゆみ)

中日新聞社名古屋本社論説委員。1960年愛知県生まれ。85年中日新聞社入社。名古屋本社社会部、廃棄物キャンペーン「どうするごみ列島」取材班、東京本社「21世紀工房」などを経て、2002年より現職。環境と農業を主に担当。名古屋市緑の審議会委員など。

パネリスト

細谷 和海 (ほそや かずみ)

近畿大学農学部、同大学院農学研究科 教授(兼任)。1951年東京都生まれ。農学博士。水産庁中央水産研究所などを経て、2000年より現職。専門は魚類学、水圏保全生物学。近年は水辺の生態系保全に関する研究等に取り組み、外来魚の問題にも注目している。

パネリスト

矢部 隆 (やべ たかし)

愛知学泉大学コミュニティ政策学部 助教授。1963年岡山県生まれ。理学博士。98年より現職。専門は、は虫類(カメ)の生態学、行動学、保全生物学。外来のカメが日本の自然に与える影響についても研究し、東海地方でミシシippアカミミガメ、カミツキガメの調査をしている。

パネリスト

浅野 玄 (あさの まこと)

岐阜大学応用生物科学部、同大学院 講師(兼任)。1970年千葉県生まれ。獣医学博士。岐阜大学大学院連合獣医学研究科COEポスドク研究員を経て、2004年より現職。専門は野生動物医学。現在は、移入動物管理等を通じて、生物多様性の保全、環境教育等に取り組んでいる。

パネリスト

鳥居 敏男 (とりい としお)

環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室長。1961年大阪府生まれ。84年環境庁(当時)に入庁。富士箱根伊豆、上信越高原などの国立公園管理事務所、東北海地区自然保護事務所などを経て現職。名前が縁となっか、近年は野生生物関係の業務に携わる。

(敬称略)

●外来生物被害予防3原則●

外来生物は人間生活と密接に関わりを持っていて、その問題の多くは日常生活に密着しています。皆様が外来生物に関わる際には、以下の原則を心にとめ、ご理解とご協力をお願いします。

1. 入れない—悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
2. 捨てない—飼っている外来生物を野外に捨てない
3. 拡げない—野外にすでにいる外来生物は他の地域に拡げない

外来生物についてもっと詳しく知りたい方は…

環境省 中部地方環境事務所 野生生物課

ホームページ: <http://chubu.env.go.jp/>

電話: 052-955-2139

E-mail: REO-CHUBU@env.go.jp までお気軽にお問い合わせ下さい。